

# 留萌産トドマツ販路の拡大

～韓国輸出に向けた民有林との連携～

留萌南部森林管理署

## 背景・現状

- 留萌地域の人工林は、民有林・国有林ともにトドマツが主体で資源の充実に伴い、素材生産量の増加が予想される。
- 当地域では大規模な木材加工施設が無いことから、大半は上川・宗谷方面に輸送費をかけて移出されている。
- 公共事業による木材利用が多い中で、トドマツ材へシフトするための需要開発、間伐材・林地未利用材の利用促進策が不足。

## 将来目標

- ☆林政連絡会議や森林・林業活性化協議会で販売促進対策の検討、流通状況の情報交換・情報共有等を通じて留萌産トドマツ販路の拡大を目指す。
- ☆資源の安定供給体制の確保により継続的な輸出等を実現し、地域林業の発展と収益性向上を図る。
- ☆民国一体となった事業ベースの低コスト化。

## 平成27年度の取組

- ◎輸出業者の動向把握、受け入れ情報の収集
- ◎輸出向け物件提示及び情報提供
- ◎地域における木質バイオマス利用の促進への支援及び資源の安定供給に向けた情報提供

## 取り組み状況

### ◎情報収集

留萌振興局と連携して留萌港からのトドマツ素材輸出情報を把握するとともに、韓国流通実態調査報告会や韓国輸出向け選別基準勉強会に参加することにより、供給側（山側）の生産事業での採材等へ反映できました。

### ◎素材のシステム販売

国有林材の素材システム販売により輸出向けを考慮した物件を作り、安定供給への一助となりました。

→輸出業者の集荷時期と出材時期のタイミングが合わず、協定に至っていません。

### ◎木質バイオマス利用の促進

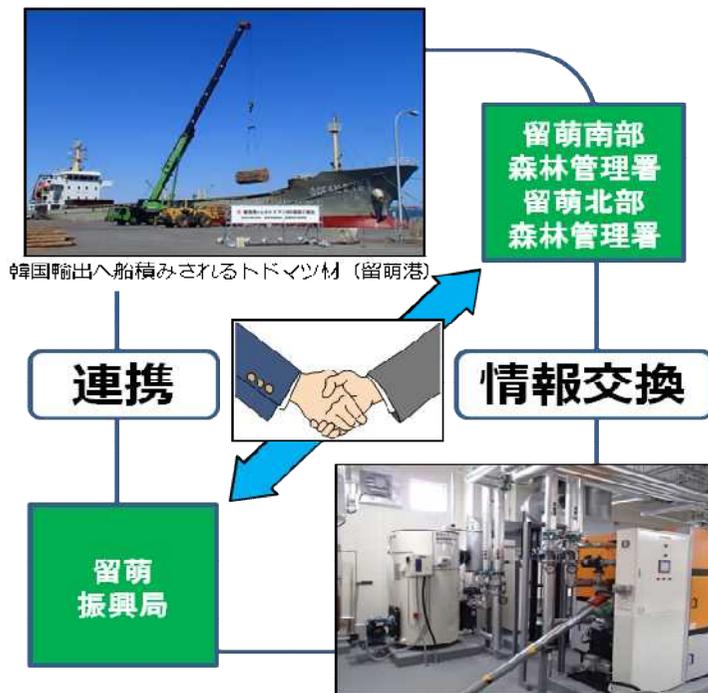
- ・留萌流域森林・林業活性化協議会のバイオマスセミナーに参加し、地元小学校に導入されたペレットボイラーの視察や地域材の利用推進について意見交換し、利用施設の普及等地域でバイオマス利用の需要を増やしていくことの必要性を共有しました。
- ・木質バイオマス関連視察研修会に参加し、ペレット利用施設や製造施設を視察し、施設導入に係る課題、原料の調達や利用の仕組みについて意見交換を行い、関係者間の意識の醸成を図りました。

## 地域における主な状況

- ・民有林が主導し、留萌港から3回のトドマツ約7千m<sup>3</sup>を韓国輸出（中国向けには、国有林材（立木販売）からも出材された）
- ・地元管内の小学校にペレットボイラーが導入

## 今後に向けて

- 相互の連携・情報交換により可能な協力・方策の検討
- 韓国輸出に向けたトドマツ材の生産量・時期に関する情報収集・提供
- 販売促進対策として需要者のニーズを把握し、地域材のPRとブランド化による利用拡大の推進
- 木質バイオマス資源の利用、中間土場による流通の改善等



韓国輸出へ船積みされるトドマツ材（留萌港）

新たに導入されたペレットボイラー（古丹別小学校）